事例Ⅰ

０　心構え

　０　問いに答える　結論を明示

　　　－まずはみんなが書きそうなことを書く

　⑴　強みを生かす／課題の解決－コアコンピタンス論

⑵　満点を狙わない。周りと一緒に振り落とされず生き残るイメージ

　⑶　⑴と関連し、全体のストーリー性を意識　一歩引いてみる

　　　この会社はどういう会社なのか

　⑷　事例Ⅰはよくわからないことを聞かれると心得る

１　第１段落の最初の方を読む。

　　業態・業種・(すぐに書いてあれば)組織構造、役員・従業員の確認

２　各段落に番号を振る。

３　最後の段落を読む。今後の方向性や社長の思いがあればチェック

４　設問解釈（～９：５０）

　⑴　センテンスごとに切る

　⑵　制約条件を四角、聞かれている事項を丸でかこむ

　⑶　時制意識

　⑷　知識による想定　あくまで与件ファースト

　⑸　対比の意識

　　　演習①：設問１　海外市場における販路開拓に軸足を移した理由

　　　　　　　　　　　－海外市場と国内市場の対比

　　　TAC模試：A社は、創業社長時代に検品専門の工場を操業する関連会社を設立している。その理由を述べよ。

　　　　　　　　 専門工場⇔検品以外もやってる工場

　　　　　　　　 関連会社⇔自社内⇔外注

　　　実力⑨：国内市場とアフリカ市場の対比意識がなく失点

　⑹　小問間の対比にも注意

　⑺　文字数を踏まえ、回答要素の個数を意識

５　ざっくりと読む(～１０：００)

時制：オレンジ　強み：青　課題・社長の思い：紫　製品ライン：黄色

　⑴　組織構成・従業員構成を図示※組織問題を検討する際に使う

　⑵　課題確認

　　　課題：現状とありたき姿のギャップを埋めるために必要なこと

　　　　　　＝ありたき姿、ビジョンがそのまま課題になることもある

　　　演習⑤：売上高１８億円の企業が１００億円企業を目指すビジョン

　　　　　　　＝現状とのギャップが課題

　　　　　　　　－大幅な出店攻勢に耐えうるマネジメント人材確保、組織風土の維持

　⑷　外部環境

　　　※戦略の変化が組織にどのような影響を及ぼすか

６　段落－設問の対応

　⑴　同じ部分を複数の回答に使うことがある

　　　TAC模試：メイドインジャパンの製品は付加価値が高いイメージが浸透しており、このような製品を求める消費者が国内だけでなくアジアに増加している。→第４問のみに使い、みんなが取れている第１問で大幅失点

　　　　　　　　第１問：アジアのビジネス環境の変化

　　　　　　　　第４問：製造拠点の国内回帰に関する戦略上の利点

　⑵　課題活用漏れがないかチェックする

７　編集

　⑴　素直に問いに答える回答－質問に答える回答骨子を作る

　　①実力⑨：チームを組んで運営する体制で運営している理由

　　　　　　　→チームで組む方が●●だから

　　　　　　　　単独で業務すると●●だから

　⑵　極力分散回答する

　⑶　手段選択の際のLRAの原則

　　　演習⑨：後継人材の育成の場面で、権限移譲でなく事業別組織化を提案し失点

８　その他

　⑴　最終、人事施策を打ち出す系問題への対応

　　　①冒頭で方向性を打ち出す(課題解決系の方向性)

　　　②①を踏まえた具体的な人事施策のみだれ打ち

　　　TAC模試：正確性を重視する風土を積極的にチャレンジする風土に変革する必要があることに気づいていたのに、これを明示せず失点

　　　〇〇のために、①～、②～、③～をすべきである。

　⑵　助言系問題への対応

　　①　効果まで書く

　　②　何をやるか、誰がやるか、どうやってやるか